

KYの進め方

形だけで終わらせない 危険予知

KYは危険項目を読み上げるだけの活動ではない
作業前に事故につながる流れを想像し 防ぐ行動を決めて実行する

START

作業内容を
確認する

何をするか

どこで行うか

誰が担当するか

何を使うか

どの順番か

周囲の作業と役割分担も確認する

作業内容が曖昧なままでは危険も具体的に出せない

1 危険を具体的に出す

悪い例 足元に注意する

良い例 通路を歩いているとき
床を横切るケーブルに
足を引っかけて転倒する

「危ない」で終わらず
原因 → 起こること → 事故
まで具体的に考える

危険を具体化



2 重点危険を絞る

出した危険の中から
今日の作業で特に注意する危険を決める

出した危険をすべて確認

今日の重点 1~2 項目

重点を絞ってもほかの危険を放置しない

3 対策を行動に変える

悪い例 十分注意する

良い例 作業前にケーブルを
通路の外へ移し
動かないよう固定する

誰が・いつ・何をするか
まで決める

なくす

止める

離す

固定する

囲う

合図・確認者

通路外へ移動・固定



4 全員で確認し実行する

リーダーだけが話すKYにしない

✓ 今日の重点危険を理解したか

✓ 対策と自分の役割を理解したか

✓ 対策を実施したことを確認したか

全員が理解してから作業を始める

まとめ

決まった言葉を並べるだけではKYにならない
危険へ気づき 事故を防ぐ行動を実行する

作業内容・人・場所・手順が変わったら

いったん止めて

KYをやり直す